

## 「神様とあなたの夢」

### ～あなたはどのように描いていますか～

使徒20：32～35

シンメトリー（左右対称）とアシンメトリー（左右非対称）を知っていますか。車などはシンメトリーです。見えないところも一緒であるというのは私たちの安心です。それに対してアシンメトリーは、一般的には私たちに不安感をもたらすのですが、最近では、「違い」「個性」「変化」という意味でこのアシンメトリーがはやっています。「イエス・キリストはきのうもきょうも、いつまでも同じです」（ヘブ13：8）私たちの召し、夢、姿は目的に向かっていくので、ぶれなければ変わりません。しかし私たちは、いつも私たちが脱線させようとする砂嵐の攻撃に遭っています。砂嵐に遭うと辛くて、被害に遭ったような気持ちになり、「なんのためにやっているのか」がわからなくなるのです。そのわからなくなった自分をなんとか変化をもたらせたいと思う感情が「アシンメトリーブーム」だと心理学者は言っています。しかし、私たちの人生はこれではいけません。私たちの人生が間違っているのであれば変える（元に戻す）ことは必要です。でも、大事な所は変えてはいけません。どこへ行ってもどんなことにあっても変わらないということが大切なのです。今、私たちが目的に進むまでに達成できない危険因子がこびりついています。それが変わらなければいけないところです。まちがってやってはならないことをやっていると自分だけで終わりません。私たちはヒストリーメーカーです。私たちの先に人がいて、私たちの今があるから将来があるのです。私たちがやったことが次の世代に引き継がれていくのです。あなたがやらなかったら次の世代がしないといけなくなります。そうするとどんどん計画が遅れてしまうのです。（I歴22：1～13）ダビデ王とその息子ソロモン王の話です。ダビデはサウルが脱線したものをもとに戻すのが役割でした。だからその中でたくさんの戦いをし、血を流してしまっただけで、神殿を建てることはできませんでした。そして息子であるソロモンの人生はダビデが戻したその道を、まっすぐに進めるのが役割でした。あなたとあなたの隣の人に与えられた目的は一緒ですが、役割は違います。それが教会であり、一番小さい形が夫婦です。隣人のやるべき役割をしても意味がありません。だからこそ、隣の人がそれを成し遂げるために自分は何ができるかを考えることが大切です。そして自分が成し遂げるべきことが何かを知っておくことが必要です。私たちは隣で生きている人の存在を忘れてはいけません。自分を1思ったとき、相手を1以上に思うのは難しいかもしれません。だけど0.7でもいいので隣人のことを「この人は何のために生きているのか」考えてほしいのです。しかし、今は自分のことでさえ1もわかっていないので、どんどん隣の人に興味がなくなり、愛が冷え切ってしまうのです。「わが子よ。主があなたとともにおられ、主があなたについて語られたとおり、あなたが、あなたの神、主の宮をりっぱに建て上げることができるように」（11）その子の計画を親の都合ではなく、その人の人生にあてはめて、見ているかどうかなのです。同情ではありません。その人の人生においてそれが大事かどうかです。同情では人の人生は変わりません。あなたは、あなたが存在することで、人に目的を与えていますか。変えるべきところは変え、変えてはならないことは変えない、これがクリスチャンである私たちがすることです。あなたの将来の夢を描いていますか。①**神様とあなたの夢をもう一度つかむ**。神様が私たちを作ったときに、自分にしかできないあなたの計画は何なのかをつかんでいないと流されます。そして結果逃げる人生になってしまいます。どんな飢餓になっても耐えられるのは目的があるからです。「幻がなければ、民はほしいままにふるまう」（箴29：18）自分の目的と夢を失った人は好きに生きてしまうのです。あなたの心のキャンパスは真っ白ですか。真っ白じゃないと新しい絵は描けません。「・・・だから今さら無理」私たちの周りにはこういういい訳がとりまいています。こうなると何もしなくなります。私たちのキャンパスを真っ白にするためにイエス様は十字架に架かったのです。「先の事どもを思い出すな。昔の事どもを考えるな。」（イザ43：18）もう一度夢をつかみましょう。②**あなたの人生に神様がいる**。神様のルールにたつ。強制・義務ではない、それを道しるべに。クリスチャンであれば、あなたの行動も口から出る言葉も「天国」のはずです。あなたは普段どんな言葉を発していますか。「私はクリスチャンです」と人の前と言えますか。人々に「あなたの人生に神様がいる」と伝えなければいけません。ダビデはソロモンに、いつも主を覚えて行えば必ずできることを伝え、それを成し遂げるための資材などを準備し、それが達成できるようにダビデがやらなくてはならないことをやってソロモンに引き継ぎました。きちんとソロモンがそれに向き合えるように、語るべき事を語り、その人と向き合ったのです。ダビデに夢があったからです。誰かに会うのも何かがあるのも意味があるのです。その意味を見出す必要があります。そして聖書に書かれてあることは強制でも義務でもありません。私たちが目的に向かってまっすぐに進むための秘訣なのです。ナビゲーションです。聖書の戒めは私たちが正しくゴールに達成するために、今の場所と進む場所を知るためのものです。命令ではありません。（エレ29：4～7）（イザ26：3～4）バビロン捕囚にあった彼らを見習わなくてははいけません。自分たちの蒔いた種でバビロン捕囚にあったのですが、その間に神様に「そこで繁栄しろ、祈れ」と言われているのです。あなたがそこに置かれているのには意味があります。そしてそこで咲くのです。だから隣人の繁栄を祈る必要があります。そうすればあなたの繁栄に変えるのです。いつまでも犠牲者根性ではいけません。人のせいにはせず、過去にしばられずキャンパスを真っ白にして夢を持つのです。（マタイ5：39～46）同情人生、人を悪くいう人生をやめ、まっすぐ進みましょう。③**あなたの夢を具体的に！！**目的、目標、結果。夢が見つかったらそれを具体的にしていく必要があります。しかし、結果が先ではありません。夢を具体的にしていかなければ絶対にそれをつかむことはできません。あなたの人生を通してあなたにしかできないあなたに任されたことを成し遂げる、そのためにあなたの人生を具体的にみんなにわかるように描かなくてははいけません。人を敵にしたら絶対にそれはかないません。だから隣の人と一緒に神様を見るのです。そして一緒に建て上げるのです。キャンパスを真っ白にし、もう一度神様の夢をつかんでいきましょう。（要約者：岩崎 祥誉）